

未来につなぐ 平和への思い

■問合せ…学校教育課(☎025-545-9244)



【後 列】 (左から)	澤宇人さん 直江津中等教育学校	二宮伶美さん 上教大附属中学校	小林寧子さん 名立中学校	柏川歩穂さん 三和中学校	長谷部知世さん 清里中学校	島田母香さん 板倉中学校	深川柳葵さん 中郷中学校	
【中 列】	中村陽菜さん 吉川中学校	久保敷杏奈さん 頸城中学校	草間天翔さん 大湯町中学校	石田彩斗さん 柿崎中学校	小崎菜緒さん 牧中学校	笠原虎之介さん 東頸中学校	佐藤旺良さん 潮陵中学校	小菅蒼乃さん 春日中学校
【前 列】	和久井海颯さん 直江津東中学校	杉田風沙さん 直江津中学校	渡邊佑果さん 八千浦中学校	杉浦照芳さん 雄志中学校	丸山瑚人子さん 城西中学校	川上遥己さん 城東中学校	丸山樹生さん 城北中学校	

主なスケジュール



1日目

○袋町小学校平和資料館・平和記念資料館・平和記念公園見学

2日目

○平和記念式典、献花・献水慰霊式参列
○全国平和学習の集いに参加 ○灯ろう流し

3日目

○折り鶴の献納
○被爆遺構展示館・レストハウス見学

「平和」の大切さを次の世代に
現代の日本に生きる私たちにとって、戦争は自分には関係ないことのように感じられますが、第二次世界大戦では、広島と長崎に原子爆弾が投下され、多くの尊い命が失われました。戦後81年が経過した今、戦争を知る人々の高齢化に伴い、恐ろしい戦争の記憶は薄れつつあります。市では、戦争の悲惨さや平和の尊さを学び、後世に伝えることを目的に、8月5日から7日までの3日間にわたり、次代を担う中学生の代表22人を広島へ派遣しました。今号では、戦争について学んだ生徒の皆さんの平和への思いを紹介しします。



令和8年度
広島平和記念式典
中学生派遣事業



学んだことを、次の世代へ

城東中学校

川上 遥己 はるき

派遣事業に参加し、戦争の悲惨さを目の当たりにしました。資料館などで見た、原爆によって黒く焦げた三輪車や、ぼろぼろに破れた衣服、被爆した方々の写真。原爆が投下されたことで起きた出来事を自分の目で確かめ、胸が締め付けられるような思いがしました。また、広島に贈られたたくさんの千羽鶴を見て、多くの人が平和を願っていることを実感

感じ、同じような悲劇は二度と繰り返してはならないと強く心に刻みました。

私たちの世代にできること

原爆は、一瞬で多くの命を奪い、人々の心と体に消えることのない傷を残しました。一命を取り留めた人の中には、今も後遺症により苦しんでいる人がいます。こうした被爆の苦しさや体験を語り続けてきた人たちも、今では高齢化が進んでいて、話を聞くことができる機会はますます少なくなっています。原爆によっ

て起きた出来事を風化させず、平和の大切さを伝え続けるためには、私たちの世代が行動しなければならぬと思います。

派遣事業に参加した一人として、まず私にできることは、広島で学んだ原爆の恐ろしさを学校の人々に伝えることです。そして、みんなに平和について改めて考えてもらいたいのです。



平和記念公園見学で、熱心にメモをとる川上さん

被爆者の言葉を心に刻んで

城西中学校

丸山 瑚人子 ことこ

私が特に心に残ったのは、「全国平和学習の集い」です。4歳の頃に被爆した人から直接お話を聞き、平和についてグループで話し合いました。当時の様子を鮮明にお話しされ、悲惨な状況が幼い心に深く刻まれたのだと感じました。

その被爆者が語った「怒りや悲しみはもちろんあるけれど、時代をさかのぼってみれば日本もたくさんの命を奪っ

てきたからね」という言葉が、今も私の心に引っかかっています。被爆者の苦しみだけでなく、戦争をさまたげない視点から考えるきっかけになったからです。何が本当に悪いのか、戦争とは何なのかを今も考え続けています。

自分の言葉で平和を伝える

参加する前は、広島派遣事業は原爆の残酷さを目の当たりにし、怖い思いをするのではないかと不安で、正直なところ前向きな気持ちになれずにいました。しかし、日本の歴史から目を背けてはいけな思考え、参加を決めました。実際に広島を訪れ、被爆者から

話を聞く中で、私たちはその体験を直接聞くことができる最後の世代になるかもしれないと感じました。だからこそ、その思いや体験を受け継ぎ、次の世代に伝えていくことが私たちの責任だと思っています。

これからは、報告会などを通して、一人でも多くの人が核兵器の問題を自分のこととして考えられるよう、学んだことや感じたことを自分の言葉で伝えていきます。



全国平和学習の集いで、グループワークを行う丸山さん